

鳥取県スポーツ振興計画(案)の策定についてのパブリックコメントの状況 (意見募集結果概要書)

平成20年12月 3日
スポーツセンター

鳥取県スポーツ振興計画の策定にあたり、県民の皆様のご意見を広くお聞きするため「パブリックコメント」を実施しました。このパブリックコメントでいただいたご意見は以下のとおりです。

1 意見募集の概要

(1) 募集期間	平成20年10月14日(火)～11月7日(金)
----------	-------------------------

2 応募の概要

(1) 応募者数	12人
(2) 応募件数	41件
(3) 応募方法	電子メール：29件(8人)、ファクシミリ：5件(2人)、 県民局：7件(2人)

3 「鳥取県スポーツ振興計画」に関する主な意見

①基本的な考え方

- 県ですべきことと市町村ですべきことを明確に区別して示すこと。
- 高齢社会に対応したスポーツ活動の在り方についてのビジョンを再構築すること。
- 知・徳・体から体・徳・知への発想の転換が必要。

②学校体育・スポーツ活動の推進策について

- 各学校での運動時間を増やす、整った環境整備、部活動の活性化等が必要。
- 小学生をはじめとして学校での基礎的な体育活動(陸上や体操など)が不足し、基礎体力が落ちているように感じる。
- スポーツ少年団は行き過ぎている。指導者の育成が急がれる。保護者の意識改革も必要である。
- 文部科学省の様々な報告や計画書には学校の校庭の芝生化が子どもの体力向上に欠かせないことを明確に打ち出している背景で、どうして鳥取のスポーツ振興計画案には盛り込まれていないのか。
- 学校体育学習の一部として、礼儀、相手に対する思いやり等の不足が人間関係の希薄に関係あるように思う。

③成人週1回以上の運動・スポーツ実施率をあげる方策について

- 地域がスポーツ(運動)にもっと密着すべき。
- 高度化が進む中で、生涯スポーツの振興は欠かせない。こうした分野は地域づくりとも密接につながっていると思われるので、地域指導者、組織作りに力を入れるべきである。
- 公園をスポーツの場所にすべきです。走る、歩く、これ以外にも体を動かす場所が必要です。
- 子どもと大人が触れ合う場所は家だけではなく、町、地域、鳥取県でまかなうべきです。
- 仕事や生活に追われている社会人環境を整備するため、企業等にも働きかけが必要。
- 家事でも、やり方ひとつ、意識ひとつで運動が出来ていて、健康の保持に役立っていると思います。実施率に含まれない分もあるのでは。

④競技スポーツの向上策について

- 県民(特に子どもたち)に夢や希望を与えるという観点で競技力の向上は欠かせない。
- 子どもの素質、能力が見出せるジュニア指導者の養成が大切ではないか。優秀な指導者の招聘(囲い込み)も考えていいのではないか。
- トップアスリートのプレーに直に触れ、子ども達に競技力向上の気持ちを喚起させることも大切ではないか。
- 国体で優秀な成績をおさめるための育成・強化は間違った考えではないか。
- ジュニア層の育成・強化はどのように進めるのか、もう少し具体的に示す必要がある。
- 競技スポーツの裾野拡大と国体という視点のバランスを考えるとともに競技種目を特化して重点的な強化・向上策を練ること。
- 地方(鳥取)の有能な選手が、中央にいる者と同等に能力の伸長が図れる環境整備を考えるべきではないのか。

⑤その他

- 全て有料ではなく、無料の施設を。

